

平成21年度八重山群島病害虫発生予報第12号(3月予報)

3月の気象予報

向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)

	平均気温	降水量	日照時間
高い(多い)	60	30	30
平年並	30	40	40
低い(少ない)	10	30	30

(平成22年2月19日付沖縄気象台発表・沖縄地方1か月予報)

平均値

	平均気温()	最高気温()	最低気温()	降水量(mm)	日照時間(h)
八重山群島(石垣島)	19.8	22.4	17.7	130.9	95.8

(沖縄気象台発表・統計期間1971～2000・資料年数30年)

3月の発生予報および防除上の注意事項

1 さとうきび

収穫後圃場におけるカンシャコバナナガカメムシ(ガイダー)の防除対策

- a 収穫の際に地上に落下した卵や越冬成虫は地表や株元に残存し、収穫後の株から伸びた幼茎などで生育する。
- b 収穫後は圃場管理を兼ね、速やかに耕耘(ロータリー、砕土)し、成虫の発生源となる古株を除去する。
- c 全面および畝間の耕耘は、卵の死亡率を高めることから、第1世代の発生を軽減できる有効な手段である。
- d 気象予報によると、向こう1か月の平均気温は平年より高い確率が60%の見込みで、例年4月中旬が幼虫の防除適期であるが、本年は早まる可能性がある。

春植えにおけるメイチュウ類の防除対策

- a 2月のカンシャシンクイハマキ合成性フェロモントラップ調査による、トラップ当たり日当たり誘殺虫数は2.1頭(前年5.5頭、平年4.2頭)と平年よりやや少なかった。
- b 2月下旬の調査の結果、新植春植圃場における芯枯茎率は0.2%(平年2.6%)と平年よりやや低かった。
- c 植付時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。
- d 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、生育初期の防除に重点をおく。

2 マンゴー

開花結実期における病害虫防除対策

- a 炭疽病の発病葉率は1.2%(前年0%、例年0.2%)であった。炭疽病に罹病した葉は速やかに施設外へ持ち出し処分し、防除を徹底する。また、炭疽病菌の潜在感染は、花芽分化初期にはすでに成立しているとの知見があり、予防散布は重要である。
- b 開花期以降、チャノキロアザミウマやハナアザミウマ類が徐々に増加することから、初期防除を徹底し、混合花の新葉や不要な新梢は発生源になることから除去する。
- c チャノキロアザミウマは薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

3 オクラ

生育初期の病害虫防除対策

- a 2月下旬の調査の結果、新植オクラでの病害虫の発生は認められなかった。
- b 例年、トンネル被覆の除去後にアブラムシ類の寄生が見られることから、シルバーポリテープ等を利用して飛来を防止する。
- c 圃場周辺の雑草はアブラムシ類の発生源となるので除草する。
- d 多発すると被害葉は萎縮し、初期生育に影響を及ぼすので、早期発見・早期防除に努める。
- e また、切り戻しのオクラについてはうどんこ病やアブラムシ類、ヨコバイ類の発生が認められることから、防除を徹底する。